

# 名張市教育委員会事務の点検・評価報告書

令和 3年 2月

名張市教育委員会

## 名張市教育委員会事務の点検・評価について

本市では、総合計画「新・理想郷プラン」に掲げた諸施策を進めるに当たり、「行政評価」により計画の達成度や効率性などの客観的な評価を行いながら、計画目標の達成に向けて効果的・効率的な行政運営を進めています。

教育委員会においては、市が実施する行政評価の結果や施策評価シート等の基礎資料を活用し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、「名張市教育委員会事務の点検・評価報告書」を作成し、公表することとしています。

教育委員会では、「新・理想郷プラン」に掲げる基本目標の一つである「豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち」の実現に向けて、第2次基本計画に定める1.生きる力を育む教育の推進、2.生涯学習・生涯スポーツの推進、3.市民文化の創造、の三つの基本施策を構成する①学校教育、②青少年健全育成、③生涯学習、④生涯スポーツ、⑤文化振興の五つの施策を担当しています。

本報告書は、令和2年6月（令和元年度実績）に作成しました施策評価管理シートを基に第2次基本計画の施策指標（目標）及び達成状況や名張市の行政評価委員会とのヒアリング等の内容を踏まえた再点検を行い、作成しました。

注）本資料にて記載されている進捗率は、施策指標（目標値）に対し、当該年度（実績値）が市総合計画の基本計画策定時（現状値）からどれだけ伸びているか（減っているか）指標の進み具合を次の計算式により数値化したものです。

$$\text{(計算式)} \quad \frac{\text{実績値 (2019 (令和元) 年度)} - \text{基準値 (2017 (平成 29) 年度)}}{\text{目標値 (2022 (令和 4) 年度)} - \text{基準値 (2017 (平成 29) 年度)}} \times 100$$

# 令和2年度 教育委員会事務の点検・評価項目 目次

- <施策1> 学校教育…………… 4頁
- <施策2> 青少年健全育成…………… 7頁
- <施策3> 生涯学習…………… 10頁
- <施策4> 生涯スポーツ…………… 13頁
- <施策5> 文化振興…………… 16頁

<参考 名張市総合計画「新・理想郷プラン」施策評価体系表と本報告書の評価範囲>

基本目標 (政策)	基本施策	施策	元 気 創 造	若 者 定 住	生 涯 現 役	
1. 支え合い健康で いきいきと 暮らせるまち	1. 人を大切にする 社会の創造	1. 人権尊重				
		2. 男女共同参画社会				
	2. 保健・医療・福祉の ネットワークづくり	1. 保健・医療・福祉 ネットワーク				
		2. 健康づくり				
		3. 地域医療				
	3. 地域福祉の充実	1. 高齢者福祉				
		2. 障害者福祉				
		3. 子ども・子育て支援				
		4. 社会保障				
2. 美しい自然に 包まれ快適に 暮らせるまち	1. 良好な 地域環境づくり	1. 環境保全				
	2. 環境負荷の少ない 社会の創造	1. 低炭素社会				
		2. 循環型社会				
	3. 安全で安心な まちづくり	1. 防災・減災				
		2. 防犯・交通安全				
		3. 消防・救急				
	4. 魅力的な 都市環境づくり	1. 土地利用				
		2. 都市計画				
		3. 交通計画				
	5. 快適な 生活環境づくり	1. 住宅・住環境				
		2. 道路整備				
		3. 公園・緑地				
		4. 上水道				
		5. 下水道等				
6. 斎場・墓地						
3. 活気に満ちて 暮らせるまち	1. 地域産業の振興	1. 農林資源				
		2. 商工経済				
		3. 観光交流				
	2. いきいきと働ける まちづくり	1. 雇用創出				
4. 豊かな心と 健やかな体を 育み暮らせる まち	1. 生きる力を育む 教育の推進	1. 学校教育				
		2. 青少年健全育成				
	2. 生涯学習・ 生涯スポーツの推進	1. 生涯学習				
		2. 生涯スポーツ				
	3. 市民文化の創造	1. 文化振興				

## 施策1 学校教育

政 策	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
基本施策	生きる力を育む教育の推進
施 策	学校教育

### 1. 基本方針

- 夢をはぐくみ、心豊かで 元気な「ばりっ子」の育成を目指して、教育内容の充実を図るとともに、安全で快適な教育環境を整備します。
- 小学校教育から中学校教育への円滑な接続等、義務教育9年間を通じて児童生徒の発達に合った学びを実現するため、小中一貫教育の取組を推進します。
- 学校、家庭、地域、関係機関等、市総ぐるみで子どもの育ちを支援し、コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、「地域と共にある学校づくり」実現を目指します。
- 特別な支援が必要な子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばす教育を推進するとともに、保護者や関係機関と連携して、途切れのない支援に取り組みます。
- 持続発展可能な社会の実現のため、E S Dの視点を取り入れた、環境教育、国際理解教育、情報教育等の充実を図るとともに、家庭、地域と連携して特色ある学校づくりに取り組みます。

### 2. 主な取組の成果及び評価

令和2年4月に桔梗が丘中学校を旧名張桔梗丘高等学校に移転し開設するため、屋上防水、外壁、トイレ、吊天井、内装、電気設備、機械設備、外構等の設計及び改修工事並びに学校備品等の整備を行い、生徒が新しい施設でも安全で快適に過ごせるための環境を整えることができました。また、平成30年度と令和元年度で全ての小中学校に空調設備等を整備し、児童生徒の学習意欲増進及び健康保持につながる環境を醸成することができました。

小中一貫教育の取組については、中学校区別分散会において各中学校区における進捗状況や年間の取組を確認し、各中学校区における小中一貫教育の取組の方向性を整理した中学校区ランドデザインを作成し、全中学校区への制度導入に向けた環境整備を強化できました。さらに、全ての幼稚園・保育所（園）・認定こども園に元小学校教員である「ピカ1先生」と幼児教育アドバイザーが年間4回程度巡回し、「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づく保育実践を広めるとともに、就学前児童の小学校入学に対する期待感と安心感を高めることができました。

### 3. 施策指標（目標）の進捗及び達成状況

施策指標（目標）の内容（単位）		基準値 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	進捗率
小中学校の教育環境に満足している市民の割合（％）	目標	—	—	—	—	—	70.0	
	成果	62.4	62.8	66.8				57.9%
不登校児童生徒の家庭に対して、学校内外の専門家、関係機関との連携ができている割合（％）	目標	—	—	—	—	—	80.0	
	成果	64.4	72.4	75.8				73.1%
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の教育計画を保護者の同意のもとに作成している割合【小学校】（％）	目標	—	—	—			70.0	
	成果	25.0	55.1	72.7				100.0%
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の教育計画を保護者の同意のもとに作成している割合【中学校】（％）	目標	—	—	—	—	—	50.0	
	成果	2.3	8.4	29.9				57.9%

### 4. 施策達成のために取り組んだ主な事務事業

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	校区再編推進事業	教育総務室	名張市における教育の機会均等や教育水準の確保、教育の質の向上を図ります。	継続
2	小中一貫教育推進事業	学校教育室	小学校6年間、中学校3年間という括りを取り払い、様々な教育課題の解決を目指して、子どもの育ちに合った9年間の一貫した、系統性・連続性のある教育の在り方について調査研究を行います。	継続
3	ぱりっ子ピカピカ小1学級体験プロジェクト	学校教育室	元小学校教員である「ピカ1先生（通称）」の活動により、就学前段階の子どもたちが、小学校への見通しと期待感をもてるようになることをねらい、いわゆる小1問題を解消し、就学前から小学校へのスムーズな接続を実現させます。	継続
4	小学校空調設備整備事業	教育総務室	児童の学校生活での快適な学習環境を確保するため教室に空調設備を整備します。	事業完了
5	中学校空調設備整備事業	教育総務室	生徒の学校生活での快適な学習環境を確保するため教室に空調設備を整備します。	事業完了

### 5. 成果を踏まえた課題や現状

- 小中一貫教育に係る中学校区内での会議の頻度や小中一貫教育カリキュラム（各教科及びキャリア教育）の作成についての進捗は、中学校区によって異なります。中学校区内での会議をより一層活性化させるとともに、義務教育9年間を見据えた系統的・継続的な指導を行うため早急にカリキュラムを作成し、全教職員の共通認識の下で取組を充実させる必要があります。

- 令和元年度までに市内16校がコミュニティ・スクール設置校となり、未設置校は3校となりました。設置校においては、学校からの報告のみで協議が深まっていない等の課題が見られるため、研修会の実施、特色ある取組の周知等、学校運営協議会の活性化に向けて更なる支援をしていく必要があります。
- 一つの小学校に多数の幼稚園・保育所（園）・認定こども園から就学する状況を踏まえ、市全体での保育士・幼稚園教諭・保育教諭と小中学校教員による相互理解のための交流会や研修会を充実させる必要があります。
- 通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、保護者と連携しながら個別の指導計画を活用して支援を進めている事例は増加しており、今後も継続した取組が必要です。
- 教育環境に満足している市民の割合が高くなった要因の一つとして、全ての小中学校に空調設備が整備されたことが考えられます。引き続き、教育ICTの環境整備となるGIGAスクール構想の実現に向け、取り組んでいく必要があります。

## 6. 今後の方向性

---

- 小中一貫教育、コミュニティ・スクール共に各中学校区担当指導主事が中学校区（学校）で行われる会議に積極的に参加すると共に、必要に応じて適切な指導・助言を行い、各中学校区（学校）における取組を支援します。
- 未設置校3校にコミュニティ・スクールを設置するとともに、学校運営への参画、学校支援の充実、地域貢献の場づくりの視点で、設置校における学校運営協議会の更なる取組の充実に向けて、支援をしていきます。
- 全ての幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校が連携を図り、円滑な接続を行うために、今後も継続して幼児教育アドバイザーやピカ1先生を派遣するとともに、教職員研修の充実を図り、子どもたちの小学校入学に対する期待感と安心感を高めるよう取組を進めます。
- 特別な支援を必要とする子どもたちが増加する中、引き続き、研修会・事例検討会を通して教員のスキルアップを図るとともに、巡回指導員等を活用して校内支援の充実を図ります。
- GIGAスクール構想の早期実現に向け、校内通信ネットワークの整備及び児童生徒の1人1台端末の整備に取り組んでいきます。



## 施策2 青少年健全育成

政 策	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
基本施策	生きる力を育む教育の推進
施 策	青少年健全育成

### 1. 基本方針

---

- 次世代を担う青少年は、かけがえの無い存在であり、心身ともに健やかに成長することは、市民一人ひとりの願いです。青少年を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、心身ともに健全にたくましく成長していけるよう、学校・家庭・地域等が連携して青少年の健全育成に取り組めます。

### 2. 主な取組の成果及び評価

---

市内小学校区において、週末等に小学校や市民センター等地域の施設を活用して、地域住民参画のもと、子どもたちと共に体験活動や異世代間交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域の中で、心豊かに育まれる環境づくりを推進する、放課後子ども教室（6地区8小学校）を実施しました。

子どもの体験活動などへのサポートや支援を行う青少年ボランティアであるジュニアリーダーを養成するための講座を開催し、地域における青少年交流の中核となる人材育成に寄与できました。また、養成講座を修了したジュニアリーダーが加入し活動する「名張Kidsサポータークラブ」が継続的に活動できるように活動機会の提供などの支援を行いました（ジュニアリーダー養成講座修了者17人のうち16人がKidsサポータークラブへ加入）。

地域づくりで子どもを守る取組として、子どもを守る家事業の普及に努めました（協件数 2,027件）。また、「名張少年サポートふれあい隊」による夜間パトロール等を引き続き行い、地域ぐるみで非行や犯罪から子どもたちを守る体制の充実・強化に努めました（年間延べ参加者数 618人）。

### 3. 施策指標（目標）の進捗及び達成状況

施策指標（目標）の内容（単位）		基準値	2018	2019	2020	2021	2022	進捗率
		(H29)	(H30)	(R1)	(R2)	(R3)	(R4)	
青少年の健全な育成に向けた取組が行われていると感じる市民の割合（％）	目標	—	—	—	—	—	50.0	
	成果	41.5	44.4	45.0				41.2%
ぐ犯・不良行為少年数（人）	目標	—	—	—	—	—	210	
	成果	224	163	142				100.0%
放課後子ども教室設置数（箇所）	目標	—	—	—			9	
	成果	6	6	6				0.0%

### 4. 施策達成のために取り組んだ主な事務事業

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	放課後子ども支援事業	文化生涯学習室	安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の参画を得て、子どもたちと地域住民の交流活動等の取組を推進します。	継続
2	青少年健全育成事業	文化生涯学習室	青少年を取り巻く環境が厳しい中、関係機関との連携や市民ボランティアの協力を得て、非行防止、環境浄化活動により安心安全な環境づくりに取り組み、青少年の健全育成を図ります。	継続
3	青少年健全育成事業補助金	文化生涯学習室	市民との協働により効果的な青少年健全育成活動を実施します。	継続
4	成人式行事経費	文化生涯学習室	式典開催により、新成人に大人としての自覚を促し、責任ある行動、社会参画の意識の醸成を図ります。	継続

### 5. 成果を踏まえた課題や現状

- 放課後子ども教室については、地域づくり組織に委託し実施していることから、地域づくり組織へ事業説明を行い、理解を得ながら未実施地域での新規立ち上げを目指しています。しかし、地域でのニーズやコーディネーター、ボランティアの選定といった課題があり、全地域での教室の立ち上げには至っていません。また、放課後児童クラブとの一体的な取組についても検討していく必要があります。
- 青少年ボランティアやKidsサポータークラブが継続的に活動できるよう、ジュニアリーダーとしての技術の向上や、活動機会の提供等を引き続き支援する必要があります。



- 青少年の非行件数は、ここ数年減少傾向にあります。不審者情報の増加や全国的にSNSを使って青少年が被害者となる事案が発生している中、引き続き警察や学校、地域など関係機関・団体と連携を密にし、子どもたちの現状把握に努め、子どもたちを見守る体制を一層強化していく必要があります。

## 6. 今後の方向性

---

- 放課後子ども教室については、未実施地域や立ち上げに向けて協議を行っている地域に対し事業着手できるよう積極的に支援していきます。子どもたちが放課後等を安全・安心に過ごせるよう、多様な体験活動を推進していきます。
- ジュニアリーダー養成講座の修了者が継続して社会参画ができるように、名張Kidsサポータークラブへの活動機会の提供や、技術向上を目的とした研修会を開催するなどの支援を行います。
- 地域ぐるみで子どもを守る取組として、子どもを守る家事業の普及による不審者対策や、「名張少年サポートふれあい隊」による夜間パトロール等を引き続き行い、地域ぐるみで非行や犯罪から子どもを守る体制の充実・強化に努めます。また、ふれあい隊・市青少年補導センター・警察・学校等の関係機関・団体との情報共有などで、更に連携を深め、子どもを守る体制を強化します。



## 施策3 生涯学習

政 策	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
基本施策	生涯学習・生涯スポーツの推進
施 策	生涯学習

### 1. 基本方針

- 市民一人ひとりが自らの資質の向上や学習を通して多様な交流を広げ、心かよう地域社会の進展のために、生涯学習のまちづくりを進めます。
- 生涯学習活動を進めるための情報提供や、学び続けることのできる環境の整備を進めるとともに、身に付けた知識や経験を社会で生かすことができる仕組みづくりに取り組みます。

### 2. 主な取組の成果及び評価

生涯学習については、生涯学習連続講座として、「なばりカレッジ」全7講座を実施（72人受講）し、市民の学習意識を郷土文化の承継へとつなげるための機運を醸成することができました。図書館においては、新聞や雑誌、AV資料などを閲覧するために来館される高齢者や、図書資料を利用しない学習活動を行う成人の増加など、多様化する利用者ニーズに対応するため、専用の閲覧席や学習席の設置等を行い、市民ニーズに即した図書館サービスを展開し、従前の図書館像に縛られない幅広い手法で、市民の学術的意識の向上に寄与できました。

### 3. 施策指標（目標）の進捗及び達成状況

施策指標（目標）の内容（単位）		基準値	2018	2019	2020	2021	2022	進捗率
		(H29)	(H30)	(R1)	(R2)	(R3)	(R4)	
目的を持って生涯学習に取り組んでいる市民の割合（％）	目標	—	—	—	—	—	46.0	
	成果	42.5	41.6	41.7				0.0%
市民センター等における家庭教育講座の講座数【延べ数】（講座）	目標	—	—	—	—	—	90	
	成果	85	88	93				100.0%
市民一人当たりの年間図書貸出冊数（冊）	目標	—	—	—			7.0	
	成果	6.4	6.2	5.4				0.0%

## 4. 施策達成のために取り組んだ主な事務事業

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	学校支援地域本部事業	文化生涯学習室	地域住民が学校を支援する体制を構築することにより、学力の定着・向上を図るとともに地域ぐるみで子どもを育てる環境を整備し、地域の活性化を図ります。	継続 (現行)
2	生涯学習推進事業	文化生涯学習室	名張に愛着を持つ人材の育成や家庭教育の充実など、地域課題等について学習機会を提供し、市民センター活動や地域組織活動の充実を図ります。	継続 (現行)
3	図書館運営費	図書館	資料(書籍)を収集・整理、保存し、市民の利用に供して学習機会の保障と文化の発展に寄与します。	継続 (拡大)

## 5. 成果を踏まえた課題や現状

- 各地域の市民センターが身近な生涯学習の場としての役割を果たし、市民が主体的に生涯学習活動が行えるよう、学習ニーズの把握や情報の収集・発信を幅広く行うとともに、生涯学習の推進、地域課題の解決に向けた取組が必要です。あわせて、皇學館大学をはじめとする高等教育機関との連携を更に強化していくことも必要です。
- 図書館の成果指標である「市民一人当たりの年間図書貸出冊数」については、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、約1か月間休館したこともあり、成果指標は減少していますが、来館者数自体は大きな変化は見られません。昨年度実施された社会教育関連法制の改正に示されるとおり、従来の図書資料を活用した学習施設としての機能に加えて、多様な主体と連携することにより、年齢を問わず幅広い世代の交流拠点としての機能も求められるなど、生涯学習拠点機能の一層の向上が求められています。あわせて、視聴覚障害等の読書環境の整備推進に関する法律、いわゆる読書バリアフリー法が施行され、視覚障害者等の読書環境の整備、さらに、増加する外国人住民の方々に向けた図書資料の充実など、新たな取組も求められています。

## 6. 今後の方向性

- 学校、家庭、地域社会が連携し地域の課題・目標の共有化を通じて心豊かで安心できる生涯学習社会の実現に向け、「地域生涯学習推進指針」の「学ぶ」「つどう」「むすぶ」の視点に基づき多様な学習機会の提供や学びを通じた地域コミュニティの活性化に取り組みます。
- 生涯学習推進協議会の機能を高める取組を進め、市民が生涯にわたって学び続けることができる場と共に、そこで学んだ人たちがその学習成果を地域に還元し、市民全体の絆をつくり上げていく場の構築に努めます。
- 高等教育機関が実施する公開講座の情報を収集し、受講を呼びかけるほか、ふるさと名張の歴史や文化を学ぶ講座の「なばりカレッジ」において、高等教育機関や図書館等の社会教育施設等と連携して、ふるさと学習「なばり学」のテーマも取り入れ、市民の学びのニーズに適応した講座を企画してまいります。また、青少年の社会参加活動につながる事業についても、高等教育機関等と連携して取り組むこととします。

- 図書館においては、引き続き、利用者の声を積極的に聴取するなどし、利用者ニーズを的確に把握し、市民が必要とする図書館サービスの提供に努めるとともに、関係団体や読書ボランティア等、多様な主体と連携することにより、生涯学習拠点機能の強化を図ります。あわせて、多様化・高度化する利用者ニーズに対応するため、指定管理制度の導入も視野に入れた抜本的な見直しを進めていきます。



## 施策 4 生涯スポーツ

政 策	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
基本施策	生涯学習・生涯スポーツの推進
施 策	生涯スポーツ

### 1. 基本方針

- 市民の誰もが、生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で、はつらつとした暮らしを営むことができる環境をつくるため、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組みます。
- 市民が気軽にスポーツ・レクリエーション活動に取り組むことができるよう、ニュースポーツの普及やイベントの開催、スポーツ・レクリエーション施設の整備について計画的に取り組めます。

### 2. 主な取組の成果及び評価

三重とこわか国体及び三重とこわか大会（全国障害者スポーツ大会）に向けて、三重県、関係機関や団体等と連携し、開催に向けた調査研究等を進め、円滑な大会遂行のための組織力を強化しました。また、地域住民及び関係機関の協力を得ながら、百合が丘地区内にホッケー場（日本ホッケー協会公認取得）の一般利用を開始し、令和元年10月から6か月間において、約7,000人の利用があり、新たなスポーツ需要の掘り起こしを行うことができました。

### 3. 施策指標（目標）の進捗及び達成状況

施策指標（目標）の内容（単位）		基準値	2018	2019	2020	2021	2022	進捗率
		(H29)	(H30)	(R1)	(R2)	(R3)	(R4)	
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合（％）	目標	—	—	—	—	—	46.0	
	成果	43.8	39.2	37.8				0.0%
市民一人当たりの年間体育施設利用回数（回）	目標	—	—	—	—	—	6.0	
	成果	4.8	4.6	4.6				0.0%
総合型地域スポーツクラブの認定団体数（団体）	目標	—	—	—			7.0	
	成果	4	4	5				33.3%

## 4. 施策達成のために取り組んだ主な事務事業

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	スポーツ活動振興費	市民スポーツ室	市民の健康づくりの意識高揚、体力向上、健康の保持・増進を図ります。	継続
2	三重国体準備事業	国体推進室	令和3年に三重県で開催される三重とこわか国体・三重とこわか大会に向け、競技開催並びに来場等に関する事前準備を実施します。	継続
4	ホッケー場建設事業	国体推進室	令和3年のとこわか国体において開催するホッケー競技の会場整備とともに「ホッケーのまちなばり」を目指します。	事業完了

## 5. 成果を踏まえた課題や現状

- スポーツフェスティバルやレクスポフェアなどスポーツを気軽に体験できるイベントを開催することにより、市民がスポーツを始めるきっかけづくりに取り組みました。しかし、市民意識調査では「週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合」が年々低下しています。意識調査では、65歳以上の年代で約56%の高い割合となっているものの30歳～39歳が19.1%、40歳～49歳が21.5%と低い数値を示しており、現役世代や子育て世代がスポーツを気軽に楽しめるような環境づくりが必要と考えます。
- より多くの集客を図るため、スポーツ大賞等の表彰式の一部を「とれたて！なばり」に移行し、実施しましたが、同時開催しているスポーツフェスティバルについても、開催日及びスポーツ体験内容の見直しを行い、充実していく必要があります。
- 三重とこわか国体の開催に向けて、推進組織を整備するとともに、市内開催競技に対し市民への普及啓発を更に強化して取り組む必要があります。

## 6. 今後の方向性

- 現役世代や子育て世代がスポーツを気軽に楽しめる新たな事業を創設するため、体育施設の指定管理者や総合型地域スポーツクラブと連携し、検討を始めます。
- 現在、スポット的に体育館や武道場、陸上競技場を使用している市民グループを洗い出し、身近にある小・中学校の体育施設を利用し定期的に活動できるようサポートできる体制づくりをします。
- 「とれたて！なばり」へ移行したスポーツ大賞等の表彰式及びスポーツフェスティバルに関して、関係協会と連携を図りながら、集客をはじめとした、より効果的な開催に向け、開催日及びスポーツ体験の内容などを見直していきます。

- 三重とわか国体の開催に向けて、推進組織を整備するとともに、市内開催競技の市民への普及啓発の更なる強化に取り組む必要があります。



## 施策5 文化振興

**政 策** 豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち  
**基本施策** 市民文化の創造  
**施 策** 文化振興

### 1. 基本方針

- 文化遺産や地域資源を市民共有の財産として大切に保護し、次世代に継承します。
- 名張らしさあふれる魅力ある市民文化を育み、豊かな心と文化の息づくまちを目指します。
- 多様な文化資源を活用し、郷土に誇りと愛着が感じられるふるさとづくりを創造します。

### 2. 主な取組の成果及び評価

能楽のふるさとづくりの推進を図るため、観阿弥祭等を開催することで、より一層の能楽振興と次世代への継承などを図るための活動の場の提供に取り組みました。令和元年度は、名張市観阿弥顕彰会が設立50周年を迎え、同時に市制施行65周年であったことから、記念事業として13年ぶりに『名張薪能』を開催し、かがり火の中、700人の観客の方々に幽玄の世界を堪能いただきました。以上の取組により、市民には能文化発祥地の一員としての意識醸成、また、内外に対しては文化資源を発信することにより、シティプロモーションの一端を担うことができました。

### 3. 施策指標（目標）の進捗及び達成状況

施策指標（目標）の内容（単位）		基準値 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	進捗率
市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合（％）	目標	—	—	—	—	—	47.0	
	成果	44.0	42.7	40.0				0.0%
青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館、郷土資料館の入場利用者数【延べ数】（人）	目標	—	—	—	—	—	568,000	
	成果	367,771	409,317	446,400				39.3%
美術展覧会出展数【延べ数】（点）	目標	—	—	—			2,975	
	成果	2,012	2,215	2,384				38.6%



#### 4. 施策達成のために取り組んだ主な事務事業

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	ふるさと能文化振興事業	文化生涯学習室	「能楽のふるさとづくり」を目指して、伝統文化の伝承・発展や市民の充実した文化活動ができるよう支援を行います。	継続
2	文化施設管理費	文化生涯学習室	文化財施設等の適切な維持管理と、入館者の利便性の向上を図ります。	継続

#### 5. 成果を踏まえた課題や現状

- 文化資源の活用面については、一般市民はもとより小中学校の学習に応じられるよう効果的な企画展示等を考えていきます。
- 観阿弥顕彰会の会員が減っており、普及活動を行うとともに能楽振興を図る必要があります。また、市制施行65周年記念事業として取り組んだ『名張薪能』ですが、今後は周年記念事業『薪能』として開催し、定期的に能楽鑑賞の機会を提供することで、【観阿弥創座の地 名張】としての取組状況を広く告知し、定着させなければならないと考えています。
- a d s ホールの充実した施設をたくさんの方々にご利用いただくとともに、いろいろなジャンルの事業を計画し、文化振興の拠点として事業展開を進めます。

#### 6. 今後の方向性

- 郷土資料館の年間来館者数は、これまでも3,000人弱と決して多くはない状況でしたが、令和元年度は3月の臨時休館の影響もあり2,000人強の入館者数となりました。今後、教育センターとの連携を強化し、来館される子どもたちの学習に活かせるように、郷土資料館の展示等について検討、また、一般市民の方に対しても展示の充実、広報の強化等を行い、文化資源が活用されるよう努めます。
- 観阿弥顕彰会、美旗のまちづくりや地元と協力し、『観阿弥祭』を開催。能楽のふるさとづくりを推進するとともに、関係者との交流を図ることで、能楽振興と次世代への継承に努めます。令和2年度は、『三重の能楽まつり』の開催市となることから、毎年開催している茂山宗彦先生によるプロの狂言公演『名張能楽祭』をその事業に組み入れ、【観阿弥創座の地 名張】での事業開催を盛り上げます。令和元年度に第10回となる『名張子ども伝統芸能祭り』が中止となりましたが、日頃の練習の成果を披露するとともに、同じように古典芸能に取り組んでいる団体とも交流することで、今後ますます伝統文化に対する意識の向上を図ります。
- 『市美術展覧会』への高校生のお品も年々増えつつあり、作品出品を依頼するとともに、一般の方々の出展も促し、市民の芸術文化を育みます。

- a d s ホールにおいては、文化活動の発表の場を提供し、芸術文化の拠点として活気ある施設になるよう、文化向上に努めます。

